神本みえ子さん―園部守執行委員長

緊急対談

参議院議員選挙を7月に控え、6月10日に神本みえ子さんと園部守執行委員長が緊急対談を行いました。教育や政治などの問題について話し合い、またその中で神本みえ子さんの思いを伺いました。

●参議院議員12年

園部　「参議院議員として2期12年が経過しましたが、この間印象深かったことは？」

神本　「それはなんと言っても政権交代です。その中で、懸案だった、少人数学級や高校授業料実質無償化を実現できたことは、非常にうれしい出来事でした。」

園部　「私たちの目でみていても、教育現場の切実な要求を阻んでいたものが何だったのかが如実に現された瞬間でした。」

神本　「反対に苦しかったのは『教育基本法改悪』など、安倍首相の前政権の時。とにかく衆議院の圧倒的多数に支えられて、やりたい放題。せっかく議席をもらいながら、何も役立てない、苦しい時期でした。」

●文科政務官として脱原発を

園部　「民主党政権下では文部科学政務官もおつとめになりました。」

神本　「ええ、科学技術担当の政務官ということで原子力問題に全力をあげました。政府内を脱原発の方向に持っていこうとしたのですが、残念ながら政権交代で時計の針が逆戻りしたかのようです。」

園部　「先日私も福島を訪問したのですが、飯舘村では本当に山は青く水は清らかふるさとが、放射能という目に見えない脅威に汚染されてしまった苦悩を強く感じました。」

神本　「その通りですね。今、何より原発の再稼働をやめさせ、脱原発社会をめざすことが急務です。」

●憲法を守れ！

園部　「安倍首相は、参議院議員選挙に勝てば憲法改正に突き進むと思われますが」

神本　「民主党にはさまざまな考え方をもった人がいますが、今回の参議院選挙にあたっては96条改正に反対、ということで意見集約しています。その上で、党内でも国会内でもいかに憲法改正に加えて憲法96条改正をすすめたい、としていますが」

神本　「彼は、近代憲法というものがどういうものなのか、ということを全く理解しようとしません。自民党のまとめた改憲案は、日本国憲法の三大原理『国民主権』『基本的人権の尊重』『恒久平和主義』のすべてをないがしろにするばかりか、近代憲法の基本原理である『立憲主義』をも否定するものです。」

園部　「それへの最大の抵抗勢力が日教組と言うわけですね。」

神本　「ええ、ですから今回の選挙はまさに日教組対安倍政権のたたかいだと思います。」

園部　「日教組は今回の参議院議員選挙の比例代表に引き続き神本さんを組織内候補として推薦しました。神高教も7月の定期大会では推薦を予定しています。参議院選挙の比例代表という仕組みでは、政党名か個人名での投票となりますね。」

神本　「ええ。それだけに日教組の組織力。それも各県ごとの力が白日の下に晒される訳で、私の個人名での得票数がその地域の教組の組織力とみられる訳ですから責任重大です。」

園部　「私たちの組合も50年以上前に、県当局の手で深刻な組織分裂攻撃を受けました。あの時代の再来も招きかねないですね。」

神本　「ええ、ですから私の議席は私の議席ではなく、皆さんの議席。子どもの成長を真に願う全国の教職員、子ども、保護者の議席だと思っています。」

●学校現場の仲間のために

園部　「この間、参議院議員として全国の教育現場に入ってみて、どんなことを感じますか」

神本　「一番感じるのは、教職員がきわめて忙しい、ということですね。確かに時代の変化の中で保護者も地域もかわり、学校もかわらなければならないことは当然だと思います。しかし、やはり教職員の一番の仕事は授業や子どもとのふれあいなのに、その他の仕事が忙しくて、子どもたちと十分にふれあえない、というのは本末転倒です。

それと、その忙しい中で、本当に献身的に頑張っている仲間がたくさんいることですね。励まされる思いとともに、こうした仲間が自分の家族や生活を犠牲にしないで生き甲斐をもって教育にたずさわれるような仕組みづくりが私の使命だと思いますね。」

●子ども・教育を守れ！

園部　「全国の教職員を代表した一議席であることは言うまでもありませんが、今回更に重要なのは、安倍さんは野党の総裁として、国会の代表質問の場で日教組解体を公言しているということです。」

園部　「政権に復帰したあとも教育改革に強い意欲を示していますね。」

神本　「彼の教育改革のコンセプトは戦後民主教育の解体です。彼の理想の学校は国家に忠誠を尽くす子どもを育成する場であり、理想の教職員は物言わぬ教職員です。」

●平和を・教育を守る一票を

園部　「神本さんのお母さんも戦前の教師だったそうですね。」

神本　「ええ、母の詠んだ『海ゆかば子等と歌いぬ教師われ、夫（つま）は揚子江の警備にありて』という歌に図らずも、教え子を戦場に送ってしまった教師の忸怩たる想いを感じています。」

園部　「実は私の祖母も小学校の教師をやっていた時代があります。大正から昭和の初めの時期ですが。祖母は連れ合いが治安維持法違反容疑で長期に未決勾留され、出獄後わずかで死去したこともあって、戦後第1回の国政選挙から1回も棄権したことがないことが自慢でした。」

神本　「選挙の大切さが身にしみておわかりだったんでしょうね。」

園部　「そう思います。ですから組合員の皆さんには『その一票が憲法を、平和を、教育を守る』と、訴えていきたいと思います。」

神本　「そうですね。私も全力で頑張らせていただきます。」

園部　「頑張りましょう。今日はありがとうございました。」

神本　「ありがとうございました。」

原発再稼働への動きを止めよう！

藤棚光信

梅雨が明けるなり、大変な暑さがやってきた。早くも執行部入りして2度目の夏がやってきたわけで。現場時代とは変わったこと、変わらないこと、それぞれあるわけだが、何が変わったって、とにもかくにも運動量が決定的に減った。現場にいる時、そもそもの日常生活からして、どれだけエネルギーを消費していたかを改めて思い返す。

そんなライフスタイルの変化を受け、とうとう今夏、人間ドックデビューすることを決意。もし何かアドバイスがある方がいらっしゃれば、是非教えて下さい。万が一、中尾の人間ドック体験談を聞きたい若手の方がいらっしゃれば、是非聞いてください。